

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

東京大学

前期日程

科目

国語(現代文・文科)

文科	試験時間	150分	満点(配点)	120点	出題数	現代文2題、古文1題、漢文1題			
総括					難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化	
					分量(昨年比)	増加	昨年並	減少	

〈総論〉

第一問は、精神分析とオープンダイアログの違いについて論じた評論。問題文の分量は昨年より大幅に増加したが、難易度は、本文・設問ともにおおむね昨年並みといえる。設問数は例年通り、解答枠2行の記述が3題、120字の記述が1題、漢字書き取りが3つ。

第四問は、現代作家の小説からの出題。第四問では一昨年まで随筆・エッセイが出題されていたが、昨年に続き小説からの出題となった。問題文の分量はおおむね昨年並み。難易度は、心情を推測し表現を工夫する必要のある設問が少なくなく、昨年同様比較的手ごわいものだった。設問数は例年通り解答枠2行の記述が4題。

〈合格への学習対策〉

東大の現代文は〈解答作業を通じて本文の全体像が明らかになる〉ように作られている。具体的に言えば、本文の論旨展開に沿った形で各部分の趣旨を順を追って問い、第一問ではさらに、結論部分に施線した上で全体の論旨構成・要旨をふまえた120字の説明を課す、という設問構成である。したがって第一に必要なのは、〈意味段落〉の区切りごとに各部分の要旨をおさえ、部分と部分のつながりを意識しながら全体の論理構成を把握する、という形で読解練習を積むことである。本文の要約文を書いてみることも、記述答案作成の練習になるだけでなく、読解力をつちかう訓練として有効だといえる。

設問は、傍線部をたんに字句の上で言い換えたただけであったり、本文中の語句を寄せ集めたりしただけの解答では、設問の求める説明には全く届いていない、というものがほとんどである。文章中の傍線部とは、たんなる断片的な語句ではなく、筆者の思考を伝えるための〈表現〉であることを認識し、本文全体の論旨構成の中に傍線部を位置づけてその〈言おうとするところ〉をつかんだ上で、その理解の内容を言語化する、という意識をもって書く姿勢をもちたい。

第四問は二年連続で小説が出題されたが、来年度以降は一昨年までの随筆・エッセイが出題される可能性もあり、ジャンルを問わず文学的な文章全般に親しむよう心がけたい。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
第一問	評論	松本卓也『斜め論 空間の病理学』(筑摩書房 2025年)〈補論1 精神分析とオープンダイアログ〉の一節。	精神分析とオープンダイアログの違いについて論じた文章。東大第一問としては比較的取り組みやすい文章だった。	標準
第四問	小説	仲谷実織「宿雨のあとで」(『小説新潮』2024年9月号掲載)の一節。	夫の転勤に伴って転居した母娘と近所に住む女性との交流を描いた小説。第四問では一昨年まで随筆・エッセイが出題されていたが、昨年に続き2年連続で小説の出題であった。	標準

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
第一問	(一)	記述	精神分析における分析家と患者の関係について説明する。	やや易
	(二)	記述	精神分析における自己の変容のあり方について説明する。	やや易
	(三)	記述	オープンダイアログにおける対話の特徴について説明する。	標準
	(四)	記述 (120字)	本文全体を視野に入れて、精神分析との対比を踏まえつつ、オープンダイアログにおける水平の対話と垂直の対話の協同について説明する。	やや難
	(五)	漢字書き取り	基本的な漢字・語彙力を問うもの。	標準
第四問	(一)	記述	親の事情で転居した「翔子」の思いを説明する。	やや易
	(二)	記述	「翔子」を自分の畑に招いた「弥生さん」の気持ちを説明する。	やや難
	(三)	記述	授業参観の欠席を提案したときの「翔子」の様子を踏まえて、「わたし」の気持ちを説明する。	標準
	(四)	記述	「弥生さん」の「育つ」という言葉をうけて「わたし」が抱いた思いを、「わたし」が「弥生さん」のしぐさに母と重なるものを感じている描写などを踏まえて考え、説明する。	やや難

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

東京大学

前期日程

科目	国語(古文)
----	--------

文科	試験時間	150分	満点(配点)	120点	出題数	現代文 2題、古文 1題、漢文 1題
理科	試験時間	100分	満点(配点)	80点	出題数	現代文 1題、古文 1題、漢文 1題

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

本文は文理共通、970字ぐらいで昨年より分量が増加した。平安時代の作り物語は、2022年度の『浜松中納言物語』以来四年ぶりの出題である。飛鳥井の女君という愛人を喪った主人公の狭衣大将の悲嘆ぶりや、夢枕に立った飛鳥井の女君の和歌とそれに対して狭衣大将がどう応じたかが読みどころとなっている。作り物語としてはそれほど大きな起伏がなく取り組みやすい文章で、設問にも対応に困るようなものは見当たらなかった。全体としての難易度は昨年よりやや易化した印象で、ケアレスミスが許されない問題であった。なお、本年度も本文中に和歌が含まれ、和歌に関する出題があった。

〈合格への学習対策〉

基本的な語彙や文法事項を身につけた上で、文章全体の展開を考慮しながら読み解く読解力が求められる。さらに、設問の指示に適うように解答を作成する工夫が必要である。解答欄が短いので、必要な情報を簡潔にまとめあげる表現力も求められる。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
第二問	作り物語	『狭衣物語』(源頼国女)	入試ではしばしば見かける作品である。	標準

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
第二問	文科(一) 理科(一)	記述	現代語訳。基本的な文法事項や古文単語の知識も必要だが、前後の文脈を視野に入れて解釈することも求められている。アは「なべてならず」「さす」などの訳、イは「ありがたげなり」の訳、エ(理科ウ)は「えー打消」「まねぶ」「なかなか」などの訳がポイント。	標準
	文科(二)	記述	心情説明。傍線部の解釈を中心に据え、「げに」の内容を明らかにする。	標準
	文科(三)	記述	内容説明。傍線部の解釈を軸に、夢の中での話であることを明らかにしてまとめる。	標準
	理科(二)	記述	内容説明。文脈から「とふ」の意味、「かかる光」の内容を考える。	やや難 標準
	文科(四) 文科(五) 理科(三)	記述	理由説明。直前の和歌の「死出の山三瀬川にや待ちわたらん」の内容と、狭衣大将がひどく悲しんでいることから、飛鳥井の女君が成仏していないと大将が判断していることをつかむ。	

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

東京大学

前期

科目

国語(漢文)

文科	試験時間	150分	満点(配点)	120点	出題数	現代文2題、古文1題、漢文1題
理科	試験時間	100分	満点(配点)	80点	出題数	現代文1題、古文1題、漢文1題

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

<総論>

白居易の五言古詩。漢詩の出題は2016年以来で、驚いた受験生もいたかもしれないが、世間では評価されない石を愛して座右に置いたことを詠じた白居易らしい平明な詩で、特に戸惑うことなく読解し解答できたと思われる。

<合格への学習対策>

基本的句形・重要語の知識を身に付けるのは当然だが、漢字や熟語の広い語彙力を意識して養ってゆくことが必要である。また、簡潔かつ的確に解答をまとめるトレーニングを重ねること。問題文としては逸話的な文章と論説的な文章の双方が出題されるが、最近は論説的文章の出題が多いので、論理的な文章の読解を練習すること。また、今年度のように漢詩が出題される可能性もあるので過去問等で対策しておく必要がある。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
第三問	漢詩	双石(白居易)	漢詩の出題は10年ぶり。最近では2011年、2016年に漢詩が出題されているが、いずれも長編の古詩で、特に2011年は今年度と同じく白居易の古詩が出題されている。	標準

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
第三問	文科(一) 理科(一)	記述	現代語訳の設問。「遺」「偶」「容」など、漢字の語意と、その文中からの判断が問われている。	標準
	文科(二) 理科(二)	記述	内容説明の設問。重要表現「所」、語彙「堪」「時人」の意味が問われ、文脈に即して「不取」を解釈することが求められている。	標準
	文科(三)	記述	内容説明の設問。現代日本語とは意味が異なる「人間」の解釈がポイント。	標準
	文科(四) 理科(三)	記述	現代語訳の設問。「～否」は疑問の表現。「老夫」は前の「垂白叟」に同じで、誰を指すかは明らか。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。